

## 【大学間協定留学】 留学報告書

|  |   |
|--|---|
| 記入日  | 2026年06月14日   |
| 明治大学の所属学部・研究科<br>※学部・学科・研究科・専攻等                  | 経営学部  |
| 留学(渡航)した時の学年                                     | 2年生   |
| 帰国年月日  | 2026年5月18日  |
| 明治大学卒業予定年月                                       | 2028年3月   |
| <b>留学先大学について</b>                                 |   |
| 留学先国   | アメリカ合衆国   |
| 留学先大学  | カリフォルニア州立大学ドミンゲス・ヒルズ校 (日本語名)<br>CALIFORNIA STATE UNIVERSITY, DOMINGUEZ HILLS (現地言語名)  |
| 現地使用言語/ 授業使用言語                                   | 英語/英語   |
| 留学期間   | 2025年8月～2026年5月   |
| 留学先大学で在籍した学年                                     | 2-3年生   |
| 留学先の所属学部等  | <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入)<br>※学部等名<br>日本語名: 経営学部<br>現地言語での名称: Business Administration<br><br><input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している<br><input type="checkbox"/> その他: |
| 形態   | <input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:  |
| 学年暦<br>※記入例:<br>1学期: 4月上旬～7月下旬<br>2学期: 9月中旬～2月上旬 | 1学期: 8月下旬～12月中旬<br>2学期: 1月下旬～5月中旬<br>3学期:<br>4学期:   |
| 学生数  | 14,262人   |
| 創立年  | 1960年   |

| 留学費用              |  |               |                                   |
|-------------------|--|---------------|-----------------------------------|
| 留学費用項目            | A 現地通貨<br>(米ドル)<br>(1 現地通貨 =<br>150~160 円) | B 日本円         | 備考                                |
| 授業料               | 0  | 0 円           | 交換留学のため                           |
| 宿舍費               | 約 \$ 11,500                                | 円             | 3 bed room 6 人部屋                  |
| 食費                | 約 \$ 3,000                                 | 円             | 自炊メインで週に \$ 60 程                  |
| 図書費               | 0  | 0 円           |                                   |
| 学用品費              | 0  | 0 円           | 日本から持参したため                        |
| 携帯・インターネット費       |  | 約 50,000 円    | 日本の通信会社、月額 5000 円程                |
| 現地交通費             | 約 \$ 100                                   | 円             | TAP カードチャージ費(☑大学まで徒歩・自転車)         |
| 教養娯楽費             | 約 \$ 600                                   | 円             | Dodgers をはじめとしたスポーツ観戦費用           |
| 旅費(留学中)           | 約 \$ 2,000                                 | 円             | ボストン、ニューヨーク、ワシントン D.C.、マイアミ       |
| 被服費               | 約 \$ 200                                   | 円             | 大学のパーカーなどお土産として                   |
| 医療費               | 0  | 0 円           |                                   |
| 保険費               | 約 \$ 1,536                                 | 約 95,000 円    | 形態: 明治および留学先大学                    |
| 渡航旅費              |  | 約 170,000 円   | ZIPAIR                            |
| ビザ申請費             | 約 \$ 405                                   | 円             |                                   |
| 雑費                | 約 \$ 300                                   | 円             | お土産代                              |
| その他               |  | 約 50,000 円    | ワクチン接種費用                          |
| その他               |  | 円             |                                   |
| 合計<br>※現地通貨 および 円 | \$19,641<br>(=約 3,020,000 円)               | 約 365,000 円   |                                   |
| 総計(A+B)<br>※円     |  | 約 3,385,000 円 | 内 2,050,000 円を奨学金として給付して頂いておりました。 |

※現地通貨で支払ったものは「A 現地通貨」の欄に、日本円で支払ったものは「B 日本円」の欄に記入し、総計も記入してください。

※現地通貨名、現地通貨と円の為替レートも必ず記入してください。

## 渡航関連

### 渡航経路

往路 出発地：成田国際空港(NRT) 目的地：ロサンゼルス国際空港(LAX) 経由地：

復路 出発地：ロサンゼルス国際空港(LAX) 目的地：成田国際空港(NRT) 経由地：

### 渡航費用

① 往復チケットを購入した場合

航空会社：

料金：

② 片道ずつチケットを購入した場合

往路 航空会社：ZIPAIR 料金：¥76,134

復路 航空会社：ZIPAIR 料金：¥92,803 ∴合計：¥168,937

### 航空券購入方法

旅行代理店(店名： )

インターネット(サイト名： Skyscanner)

その他( )

## 滞在形態関連

## 1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎等)

学生寮(寮の名前: Apartment)     アパート     ホームステイ

## 2) 部屋の形態

個室     相部屋(同居人数 4)

## 3) 共有部分

バス     トイレ     キッチン( 自炊可     自炊不可)

## 4) 住居を探した方法:

大学からの斡旋

## 5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

CSUDHには Apartment と Residence Hall の 2 種類あります。私は Apartment を選択しました。留学開始前に一人の時間を確保したいと思い 1 人部屋を希望していましたが、選択肢にありませんでした。予想ですが CSUDH に 4 年間在籍する現地学生が優先されるのだと思います。Residence Hall はキッチンが建物全体を通して 1 階に 1 個しかなく、トイレとシャワールームが各フロアにあるといった感じで、部屋は本当に寝るためだけといったイメージです。一方で Apartment は各部屋にキッチン、トイレ、お風呂があり、個人スペースも圧倒的に多いと思います。また、ルームメイトが友達を部屋に連れてきてその人とまた友達になれる機会も多かったので Apartment を選んでよかったと思います。しかし、部屋の掃除やトイレトイレットペーパー、食器用洗剤、殺虫剤など生活必需品は自分たちで用意しなくてはならず、ある人はすごい部屋に貢献してくれる一方で、ある人は人のものを当たり前のように使いまくる現状もあります。自身のものが勝手に使われたり、冷蔵庫に入れたものが減っていたりなどストレスを感じることも多くありましたがそれも勉強だなと思います。

Apartment は 2 人、4 人、6 人部屋の 3 種類から選択できました。いずれの部屋も完全な個室は存在せず、ベッドルームが 2 人で一つとなっていました。ルームメイトの当たりはずれは存在するのでリスクヘッジのために 2 人部屋を避け 6 人部屋を選択しました。4 人部屋はトイレが 1 つしかありませんが 6 人部屋は 2 つあります。またルームメイトが 5 人もいれば一人は気の合う友人ができると思い、選択しました。結果として、正解だったと思います。私のルームメイトは落ち着いた人が多くトラブルも少なかったと思います。私のルームメイトの中には心の病気を抱えている人もおり、常に叫んだり走り回ったりする姿も見られましたが、危害を加えることはなく、普通に会話もできるため、彼には彼の世界があるのだなと感じました。その他のルームメイトは穏やかで、母国の料理を作ってくれたり、買い物に連れて行ってくれたり、とても恵まれた環境でした。

ただ、部屋によっては大麻を吸う人がいたり、毎日のように深夜までパーティをする部屋もあり、本当に運要素が強いと思います。ですが、部屋変更申請をすることや、自身が同じ部屋になりたい人を指定できる制度もあるので、外れを引いたらそれはそれで経験だと思って部屋の変更手続きをすることをお勧めします。

## 現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: )

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等: パソコンの故障、現地の友人)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

現地の友人から

基本的には一人で出歩かないようにしていました。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮や大学では常にWi-Fiが使えたため、月10GBでも基本的には十分でした。しかし、月末にデータが足りなくなることが何度あり、無制限プランにしておけばよかったと感じました。また、10か月の留学期間中に3回ほど寮のWi-Fiが使えないトラブルがあり、その際は図書館に行って課題をする必要がありました。少し余裕のあるデータ容量のプランを契約したほうがストレスは少ないかと思います。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地での資金調達は、主に日本で開設したソニー銀行を通じて行いました。毎月、奨学金財団から給付して頂くお金を、円が少しでも強くなったタイミングでその都度ドルに両替して使用していました。

春学期からは現地で銀行口座(Bank of America)を開設し、友人への送金などに使っていました。口座開設は、Housing departmentで発行してもらった書類とビザ関連書類を提出することで可能で、費用は無料、手続き時間は約1時間ほどでした。ですが、実際にはこの現地口座を使う機会はあまり多くありませんでした。というのも、ソニー銀行から現金を引き出し、それを現地銀行口座に入金するという手間が発生したためです。ソニー銀行からの現金引き出しには約1.8%の為替手数料と、1回あたり5ドルの現地ATM手数料がかかりました。そのため、最初から海外送金に強いサービスを準備しておけばよかったと感じています。

現地口座は使用頻度こそ高くありませんでしたが、手段として持つておく分には安心感がありました。

現地の友人と食事をする際には、自分が先に支払い、後から現金で受け取る形にすることで、その現金を次の支払いに回すことができるのでお勧めな方法です。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えて下さい。

日本のお菓子やパスタソース、インスタント味噌汁は現地でも購入可能ですが、価格が日本の約3倍と高いため、日本から持参することをおすすめします。特に、だしは自炊を始めてから使用頻度が高く、日本食を作る上で欠かせないため、持っていくと非常に便利です。

また、化粧品や保湿クリーム、リップクリームなども現地の日本食スーパーで購入できますが、こちらも価格が高いため、日本で使い慣れたものを持っていく方が無難かと思います。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

|   |   |   |
|---|---|---|
| 1) 留学先で取得した単位数合計  |   | 本学で認定された単位数合計<br>※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。   |
| 36 単位   |   | <input checked="" type="checkbox"/> 単位<br><input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: ) |
| 2) 履修登録の時期・方法及び履修制限   |   |   |
| <input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後<br><input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他( )<br><input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった: |   |   |
| 3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。  |   |   |
| 履修した授業科目名(留学先大学言語)  |   | 履修した授業科目名(日本語)  |
| Global Organizational Ethics and Social Responsibility  |   | グローバル組織倫理と社会的責任   |
| 科目設置学部・研究科  | MGT200-01   |   |
| 履修期間  | 2025 年秋学期   |   |
| 単位数   | 3   |   |
| 本学での単位認定状況  | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)  |   |
| 授業形態  | Lecture(チュートリアル、講義形式等)  |   |
| 授業時間数   | 1 週間に 75 分が 2 回   |   |
| 担当教授  | Gary L. Polk  |   |
| 授業内容  | この授業では、ペンシルベニア州立大学で起きた児童性的虐待事件のケーススタディをもとに、実際の関係者の立場に立ち、それぞれの視点から事件を分析するとともに、倫理的な問題について考察しました。授業は、教授による倫理に関する基礎的な講義を聞いた後、学生がグループに分かれてケーススタディを議論する形式で進められました。さらに、この授業では 5 回のケーススタディすべてが、企業の不正行為や告発に関する映画や文献を題材としており、それに基づいてレポートを作成する形式でした。授業を通して、倫理的判断や組織内での責任の所在、告発行為の意義などについて学びました。  |   |
| 試験・課題等  | 3 回の Exam、5 回の Case Studies、Team Project、毎週の Discussion Board への投稿  |   |
| 感想を自由記入   | 正直、この授業が一番大変でした。内容自体が難しい上に毎週課題があり、グループワークでは最初の 1 か月間、同じグループのメンバーが全く助けてくれず、授業にも来なかったため 1 人で取り組むことになりました。しかし、教授はとても優しく、グループ変更をお願いしたところ快く対応してくださり、新しいグループのメンバーは親切で多くのサポートをしてくれました。また、教授は学生に積極的に意見を求め、「日本だとどうなの？」と話題を振ってくださったため、自然にクラスで発言する機会も増えました。この授業は 1 年生が多く履修していたこともあり、話が合う友だちも多くなりました。さらに、教授の会社のパーティへクラスの友達に連れて行ってもらい、アメリカの結婚式会場で美味しい食事を楽しむことができたのも貴重な経験でした。 |   |

| 履修した授業科目名(留学先大学言語) | 履修した授業科目名(日本語)  |
|--------------------|---|
| Management Theory  | マネジメント理論  |
| 科目設置学部・研究科         | MGT310-31   |
| 履修期間               | 2025 年秋学期   |
| 単位数                | 3   |
| 本学での単位認定状況         | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)  |
| 授業形態               | Hybrid (対面授業とオンライン授業が毎週 1 回ずつ)(チュートリアル、講義形式等)   |
| 授業時間数              | 1 週間に 75 分が 2 回   |
| 担当教授               | Xia Zhao  |
| 授業内容               | この授業では、経営管理の主要プロセスである計画・組織化・リーダーシップ・統制を中心に学びました。特に、意思決定プロセス、チームマネジメント、職場における多様性の意義、モチベーション理論、リーダーシップ理論などが扱われました。  |
| 試験・課題等             | MindTap 課題、ディスカッションボードへの投稿、ケーススタディプロジェクト、中間・期末試験(15%)   |
| 感想を自由記入            | マネジメントの基本である計画・組織化・リーダーシップ・統制のプロセスを中心に学び、MindTap を使った章ごとの学習やケースアクティビティを通じて、理論を実際の企業場面に当てはめる力を養うことができました。対面授業では、ケース分析やディスカッションを通じて、意思決定やチームマネジメント、多様性の重要性などを実践的に理解できた点が特に印象的でした。 |

| 履修した授業科目名(留学先大学言語)   | 履修した授業科目名(日本語)  |
|----------------------|---|
| Financial Accounting | 財務会計  |
| 科目設置学部・研究科           | ACC 230   |
| 履修期間                 | 2025 年秋学期   |
| 単位数                  | 3   |
| 本学での単位認定状況           | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)  |
| 授業形態                 | on-line (チュートリアル、講義形式等)   |
| 授業時間数                | 1 週間に 分が 回  |
| 担当教授                 | Sheng Yi  |
| 授業内容                 | 財務諸表の構造・作成・分析を中心に学びました。貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の理解、GAAP(一般に認められた会計原則)の枠組み、取引の記録と調整仕訳、棚卸資産評価、減価償却、負債・株主資本の会計処理、現在価値・将来価値の概念、財務比率分析などを学びました。 |
| 試験・課題等               | Connect 課題(動画・クイズ・ショート/ロング問題)中間・期末試験  |
| 感想を自由記入              | 財務会計の基礎となる概念を体系的に学ぶと同時に、簿記に必要な英単語や会計用語を英語で理解する良い機会になりました。仕訳・財務諸表・棚卸資産・減価償却など、日本の簿記 3 級と共通する部分も多く、既習の知識と結びつけながら学べたため、理解が進み面白く感じることができました。  |

| 履修した授業科目名(留学先大学言語)                      | 履修した授業科目名(日本語)  |
|---|---|
| Personal Finance for Non-Finance Majors | パーソナルファイナンス(非専攻者向け)   |
| 科目設置学部・研究科                              | FIN200  |
| 履修期間                                    | 2025 年秋学期   |
| 単位数                                     | 3   |
| 本学での単位認定状況                              | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)  |
| 授業形態                                    | Lecture(チュートリアル、講義形式等)  |
| 授業時間数                                   | 1 週間に 75 分が 2 回   |
| 担当教授                                    | Frank Billes  |
| 授業内容                                    | 個人の資産形成と金融リテラシー向上を目的とし、家計管理・金融計画・税金・銀行サービス・クレジット・保険・投資・住宅購入・老後資金計画など、生活に密接に関わる幅広いテーマが扱われました。また、消費者が誤った選択をしてしまう心理や、企業が情報格差を利用して弱者を搾取する仕組みについても学びました。 |
| 試験・課題等                                  | 出席、毎週の課題、中間・期末試験  |
| 感想を自由記入                                 | 日常生活に直結する金融知識を体系的に学ぶことができ、特に家計管理・クレジット・保険・投資・老後資金計画など、将来に役立つ内容が多かったです。課題では、税金の計算やローン比較、保険の選択、投資ポートフォリオ作成などを実際に行うため、金融リテラシーを実践的に高めることができました。         |

| 履修した授業科目名(留学先大学言語)      | 履修した授業科目名(日本語)  |
|-------------------------|---|
| Principles of Marketing | マーケティング原理   |
| 科目設置学部・研究科              | MKT 350   |
| 履修期間                    | 2025 年秋学期   |
| 単位数                     | 3   |
| 本学での単位認定状況              | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)  |
| 授業形態                    | Lecture(チュートリアル、講義形式等)  |
| 授業時間数                   | 1 週間に 75 分が 2 回   |
| 担当教授                    | A. Colman   |
| 授業内容                    | マーケティングの基本概念を体系的に学び、市場環境・ターゲット市場・マーケティング戦略・4P(製品・価格・流通・プロモーション)・顧客価値・倫理・グローバルマーケティングなどが扱われました。  |
| 試験・課題等                  | 4 回のクイズ、レポート 2 本、中間試験・期末試験  |
| 感想を自由記入                 | マーケティングの基本であるセグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング(STP)や、4P(製品・価格・流通・プロモーション)の考え方を実際の企業事例を通して学ぶことができました。アメリカ企業のマーケティング戦略について実際の広告やホームページを通して学ぶことができ、様々な米企業について知ることができたのも良かったです。 |

| 履修した授業科目名(留学先大学言語)        | 履修した授業科目名(日本語)  |
|---------------------------|---|
| Advertising and Promotion | 広告・プロモーション論   |
| 科目設置学部・研究科                | MKT 352   |
| 履修期間                      | 2026 年春学期   |
| 単位数                       | 3   |
| 本学での単位認定状況                | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)  |
| 授業形態                      | on-line(チュートリアル、講義形式等)  |
| 授業時間数                     | 1 週間に 分が 回  |
| 担当教授                      | Melissa St. James   |
| 授業内容                      | 広告とプロモーションの役割を中心に、IMC(統合マーケティングコミュニケーション)の考え方、広告代理店の機能、メディアの特徴、広告制作プロセス、消費者行動、広告規制などを学びました。   |
| 試験・課題等                    | 出席、クイズ・宿題、レポート、中間・期末試験  |
| 感想を自由記入                   | 広告がどのように企画され、どの媒体を使って消費者に届けられるのかを体系的に学ぶことができました。特に、IMC の考え方やメディアごとの特徴を理解しながら、広告戦略をどのように組み立てるかを考える内容が印象的でした。オンライン形式でも毎週のクイズや課題を通して理解が深まり、広告の仕組みを実務的に捉える力が身についたと感じています。 |

| 履修した授業科目名(留学先大学言語)      | 履修した授業科目名(日本語)   |
|-------------------------|--|
| International Marketing | 国際マーケティング  |
| 科目設置学部・研究科              | MKT 358  |
| 履修期間                    | 2026 年春学期  |
| 単位数                     | 3  |
| 本学での単位認定状況              | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)   |
| 授業形態                    | Lecture(チュートリアル、講義形式等)   |
| 授業時間数                   | 1 週間に 75 分が 2 回  |
| 担当教授                    | Sari Silvano-Ryan  |
| 授業内容                    | 国際マーケティングにおける主要な意思決定を中心に、文化・経済・政治・法制度など国ごとに異なる環境がマーケティング戦略に与える影響を学びました。また、ケーススタディを通じて実際の企業の国際展開を分析しました。  |
| 試験・課題等                  | 3 回の試験とグループプレゼンテーション   |
| 感想を自由記入                 | 文化・政治・経済など国ごとに異なる環境がマーケティング戦略にどのような影響を与えるのかを体系的に学ぶことができました。特に、Hofstede の文化次元や市場参入戦略、国際的な STP などをケースと結びつけて考える内容が印象的でした。グローバル市場で企業が直面する課題を具体的に理解でき、国際ビジネスへの関心がさらに高まりました。 |

| 履修した授業科目名(留学先大学言語)    | 履修した授業科目名(日本語)   |
|-----------------------|--|
| International Finance | 国際金融論  |
| 科目設置学部・研究科            | ECO 341  |
| 履修期間                  | 2026 年春学期  |
| 単位数                   | 3  |
| 本学での単位認定状況            | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)   |
| 授業形態                  | Lecture(チュートリアル、講義形式等)   |
| 授業時間数                 | 1 週間に 75 分が 2 回  |
| 担当教授                  | Mahmoud Salari   |
| 授業内容                  | 国際金融市場における意思決定を理解することを目的とし、外国為替市場、国際金融システム、国際資本市場などが扱われました。また、国際収支、為替レートの決定要因、グローバル企業の資金調達・投資判断など、実務に直結するテーマを学び、ニュースや実例を用いて国際金融の動きを分析しました。 |
| 試験・課題等                | 中間・期末試験、クラス内ディスカッション・課題、レポート、個人プレゼンテーション   |
| 感想を自由記入               | 外国為替市場の仕組みや国際資本市場の特徴など、基礎を体系的に学ぶことができました。為替レートがどのように決まり、企業が国際的な投資や資金調達を行う際にどのような判断が必要になるのかを理解できた点が印象的でした。                                  |

| 履修した授業科目名(留学先大学言語)      | 履修した授業科目名(日本語)  |
|-------------------------|---|
| Compensation & Benefits | 報酬・福利厚生管理   |
| 科目設置学部・研究科              | HRM 321   |
| 履修期間                    | 2026 年春学期   |
| 単位数                     | 3   |
| 本学での単位認定状況              | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)  |
| 授業形態                    | Lecture(チュートリアル、講義形式等)  |
| 授業時間数                   | 1 週間に 75 分が 2 回   |
| 担当教授                    | Cal Caswell   |
| 授業内容                    | 報酬制度の設計と運用を中心に、内部公平性、外部競争力、賃金構造、労働組合などを学びました。   |
| 試験・課題等                  | 出席、2 回中間試験、期末試験、個人プレゼンテーション   |
| 感想を自由記入                 | この授業では、報酬制度が企業の競争力や従業員のモチベーションにどのように影響するのかを体系的に学ぶことができました。また、実際の企業を対象に報酬制度の課題を分析するプロジェクトでは、理論を現実のビジネス課題に結びつける経験ができ、学びの深まりを実感しました。 |

| 履修した授業科目名(留学先大学言語)      | 履修した授業科目名(日本語)   |
|-------------------------|--|
| Organizational Behavior | 組織行動論  |
| 科目設置学部・研究科              | MGT 312  |
| 履修期間                    | 2026 年春学期  |
| 単位数                     | 3  |
| 本学での単位認定状況              | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)   |
| 授業形態                    | Lecture(チュートリアル、講義形式等)   |
| 授業時間数                   | 1 週間に 75 分が 2 回  |
| 担当教授                    | Rida Elias   |
| 授業内容                    | 個人・チーム・組織レベルでの行動を理解することを目的とし、意思決定、チームワーク、コミュニケーション、リーダーシップ、組織文化など幅広いテーマを扱った。ケース分析やグループプロジェクトを通じて、組織行動の理論を実際の職場場面に適用する力を養った。  |
| 試験・課題等                  | 出席、ケーススタディ、グループプレゼンテーション、中間・期末試験   |
| 感想を自由記入                 | グループ課題が成績の大半を占めていたので難しかったです。課題に取り組む際には、メンバー間での意思共有や役割分担が遅れると作業が進まないため、どのように早い段階で共通理解をつくり、効率的に動き出せるかを常に意識する必要がありました。組織行動論で扱う「コミュニケーション」「動機づけ」などの内容を、実際のグループワークの中で体感しながら学べた点が印象的でした。 |

| 履修した授業科目名(留学先大学言語)        | 履修した授業科目名(日本語)  |
|---------------------------|---|
| Small Business Management | 中小企業経営論   |
| 科目設置学部・研究科                | MGT 412   |
| 履修期間                      | 2026 年春学期   |
| 単位数                       | 3   |
| 本学での単位認定状況                | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)  |
| 授業形態                      | Lecture(チュートリアル、講義形式等)  |
| 授業時間数                     | 1 週間に 75 分が 2 回   |
| 担当教授                      | Michael Grimshaw  |
| 授業内容                      | 中小企業の創業・運営・成長に必要な知識を幅広く学び、起業家精神、ビジネスモデル、法的環境、資金調達など幅広く学ぶことができました。実際に小規模ビジネスの創業プロセスを体験するプロジェクトや、経営者へのインタビュー、外部イベント参加など、実践的な学習が中心となっていました。  |
| 試験・課題等                    | ゲスト講義のリフレクションペーパー、外部イベントへの参加、経営者へのインタビュー、中間・期末試験  |
| 感想を自由記入                   | この授業は、履修した科目の中で最も実践的な内容だったと感じています。課題の提出は大変でしたが、その分、外部イベントへの参加や、実際に起業した経営者へのインタビューなど、座学だけでは得られない貴重な経験を積むことができました。ビジネスを立ち上げるプロセスを自分で体験することで、起業家の視点や意思決定の難しさを実感し、小規模ビジネスの運営に必要な考え方を深く理解するきっかけになりました。 |

## 卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職   進学   未定   その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

未定

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。  
(例: 留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)  
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。  
ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。  
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

私は就職活動への不安をきっかけに、大学2年生から3年生にかけて留学を決意しました。日本では多くの企業が大学3年生を対象にインターンシップを実施し、この時期から就職活動が本格化します。そのため、「留学によってチャンスを逃してしまうのではないか」という不安は常にありました。

実際に留学中に参加したポストン・キャリア・フォーラムでは、企業の方から「まだ2年生なんですね」と言われ、選考対象として見てもらえない場面が多くありました。応募できるインターンシップや採用イベントも限られており、就職活動に直結する経験はほとんど得られませんでした。一方で、大学3・4年生には多くのチャンスが開かれており、当日面接や企業との交流機会が豊富にあることを目の当たりにしました。留学中であっても、学年が合えば十分に就職活動の機会があることを知ったのです。

もちろん、人よりも難しい道を選ぶ必要があるのは事実です。しかし、それを理由に留学を諦めてほしくはありません。留学は視野を広げ、準備力を高める貴重な経験です。私自身が経験したわけではありませんが、仮に3年生から4年生にかけて留学したとしても、就職活動の機会は存在すると感じています。

一方で、早期選考に直結するサマーインターンのES締切は3年次6月に集中しており、実際のインターンは8～9月に開催されます。3年次秋学期から留学すると、他の学生より遅れをとる可能性があるのも事実です。私も留学中に企業説明会やES提出を行いました。時差の影響で深夜になったり、現地の試験期間と重なったりと非常に忙しい思いをしました。

私はリスクを避け無難な道を選ぶ性格で、留学前に忙しくなることを恐れてサークルやアルバイトを辞めてしまいました。続けていたら準備が不十分だったかもしれませんが、それはやってみなければ分からないことであり、結果として無難な道を選んでしまったと後悔しています。

私が伝えたいのは、就職活動のタイミングに過度に縛られず、自分が納得できる選択をしてほしいということです。難しい道を選ぶ勇氣は必要ですが、その経験が自分の可能性を広げてくれます。自分の選択に責任を持ち、努力を続ければ、留学中であっても内定を得ることは可能だと私は思います。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

## 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

|              |         |  |
|--------------|---------|--|
| 留学開始年の<br>前年 | 1月～3月   | 高校卒業、TOEIC 受験  |
|              | 4月～7月   | 大学入学、経営学部主催 GREAT プログラムへの参加                          |
|              | 8月～9月   | TOEFL 受験   |
|              | 10月～12月 | 留学計画書の作成、学内面接試験                                      |
| 留学開始年        | 1月～3月   | 明治大学留学試験の合格、留学先大学への書類提出、業務スーパー<br>ドリーム財団奨学金書類提出、面接試験 |
|              | 4月～7月   | 留学先大学からの承認、VISA 取得、旅行券の手配、履修登録                       |
|              | 8月～9月   | 留学開始   |
|              | 10月～12月 | 2025 年度秋学期   |
| 留学/帰国年       | 1月～3月   | 2026 年度春学期   |
|              | 4月～7月   | 帰国、就職活動開始  |
|              | 8月～9月   | サマーインターンへの参加予定                                       |
|              | 10月～12月 | 明治大学 3 年次秋学期、就職活動                                    |

## 留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生活全般等について、アドバイスを記入してください。

### 【アメリカおよび CSUDH を選んだ理由】

私がアメリカを留学先として選んだ理由は、英語力を向上させたかったからです。ヨーロッパにも興味はありましたが、ドイツ語やフランス語などを日常会話レベルまで習得するのは容易ではないと感じていました。そのため、留学期間中を通して英語に触れ続けられる環境で学びたいと考え、英語圏の大学に絞って留学先を検討しました。中でも、さまざまな国や文化、バックグラウンドを持つ人々が集まるアメリカは、多様性の中で学べる点に大きな魅力を感じました。CSUDH を選んだ理由の一つは、ロサンゼルスという土地に以前から漠然とした憧れを抱いていたからです。温暖で過ごしやすい気候に加え、大谷翔平選手や山本由伸選手、佐々木朗希選手、八村塁選手など、多くの日本人が世界の舞台上で活躍していることも印象的でした。また、ロサンゼルスは数多くの映画のロケ地としても知られており、その華やかで活気あるイメージに強く惹かれました。

一方で、治安の悪さなどアメリカ社会が抱える問題についても、渡航前から認識していました。しかし、ただ楽しいだけの留学にしたいくない、社会の光と影の両面を自分の目で見たいという思いがありました。実際に、公共交通機関で薬物中毒者を目にしたり、大学周辺で大麻のにおいを感じたり、夜遅い時間にネグレクトの影響と思われる子どもが物を売っている場面に遭遇するなど、アメリカ社会の負の側面も多く経験しました。これらの体験は、現実の社会問題を考える貴重な学びとなりました。

さらに、ロサンゼルスがビジネスの中心地の一つである点も、CSUDH を選んだ大きな理由です。加えて、日本人留学生が少なく、明治大学からの派遣人数も限られているため、英語を使わざるを得ない環境に身を置けることに魅力を感じました。少人数であるからこそ、教授や学生同士の距離が近く、積極的に議論や交流ができる点も、CSUDH ならではの強みだと感じています。

### 【奨学金】

私は、業務スーパー・ドリームジャパン財団様より、準備金 25 万円と月額 20 万円を『給付』していただいております。この奨学金のおかげで、アメリカで数えきれないほど多くの素晴らしい経験をすることができました。奨学金の合格は決して容易ではありません。私が出願した際は、GPA3.34 以上に加え、TOEFL iBT70 点以上、IELTS5.5 以上、TOEIC820 点以上のいずれかの英語スコアが必要でした。そのうえで、一次の書類審査、二次の面接試験が行われます。それでも、金銭的な理由で留学をためらっている方にとって、手厚く支援して下さる奨学金制度があることを知っていただければと思います。ほかにも大学から紹介してもらえる奨学金は多くあります。

アメリカの物価は非常に高く、大抵のものが日本の 3 倍から 5 倍します。ビザや交通手段の関係で現地でアルバイトをすることも難しく、金銭面でストレスを感じることも多々ありました。日本でアルバイトを頑張る友人の姿を見て、「自分はお金を使えばかりだな」とストレスを感じていました。しかし、この奨学金のおかげで高額な留学費用を賄うことができ、両親への負担も少しは軽くできたのではないかと思います。

また、現地でパソコンが壊れるという緊急事態もありましたが、新しいものを購入することができました。加えて、この奨学金があったおかげで、現地の友人の誘いに気軽に「YES」と答えることができたり、多くの場所へ旅行に行ったりと、さまざまな経験を楽しむことができました。

奨学金を得ることは簡単ではありません。しかし、その分、留学生生活をより充実させる大きな力になります。私にとって、この奨学金は、数えきれないほどの価値ある経験を支えてくれた存在でした。

心から感謝しています。

### 【食】

現地の食費は非常に高く、ファストフードであっても一食あたり 2,000 円近くかかることが多いため、自炊は必須だと感じました。私自身、留学開始後に現地で炊飯器を購入しました。価格は約 60 ドルと決して安価ではありませんが、毎日使うことを考えると結果的にとても良い買い物だったと思います。

食材については、Tokyo Central という日本の食品を扱うスーパーで、だしや醤油、お米、みそなどを購入し、日本食を中心に自炊していました。日本の調味料が手に入ることで、食生活の満足度は大きく向上しました。また、大学が提供している Food Pantry を積極的に利用していました。ここでは毎週、肉や野菜、フルーツなどを無料でもらうことができます。無料であるため、品質や味は「まずまず」といった印象で、週によってもらえる内容が異なり、必ずしも欲しいものが手に入るとは限りません。ですが、生活費を抑えるうえで非常に助かる制度なので、活用することをおすすめします。

そのほか、近くにある Walmart では肉や牛乳、野菜などをよく購入していました。最初は物価の高さに圧倒されましたが、外食と比べると自炊は圧倒的に安く、コストを抑えることができます。

アメリカで健康的な食生活を維持することは簡単ではありませんが、自炊を工夫することで、ある程度はカバーできます。

### 【友達】

私の留学前の一番の懸念点は、友達ができるかどうかでした。CSUDH はキャンパス内に住む学生が少なく、多くの学生が実家やキャンパス外から通学する、いわゆる Commuter school だそうです。そのため、授業が終わると多くの学生はすぐに帰ってしまいます。現地の学生でもクラス内で友達を作るのが難しいと嘆いているくらいなので、なかなか厳しいものがあると思います。実際に私自身も、1年間の留学でキャンパス外で遊ぶほど仲良くなれた友人は、クラスでは2人だけでした。

一方で、クラブでは友達作りやすかったです。小規模な大学のため、クラブ活動も少人数で、何度か参加するだけで名前を覚えてもらえます。それがきっかけとなり、キャンパス外で一緒に遊びに行く関係へと発展しました。また、私はアパートメントに住んでいたため、ルームメイトが招いた友達と仲良くなる機会もあり、交友関係を広げることができました。

新しい友達を作るうえで最も大切なのは、積極性だと思います。最初は初対面の人と英語で会話することに不安を感じ、躊躇してしまい、ただ聞いているだけになってしまうこともあります。しかし、自分から話そうとしない人と一緒にいても、相手にとっては印象に残りにくく、関係は深まりません。たとえ英語が完璧でなくても、自分のことを伝えようとする姿勢を見せることで、「この人と話すのは楽しい」「もっと話してみたい」と思ってもらえるようになります。私自身、英語は流暢ではありませんでしたが、それでも積極的に話すことを心がけたことで、多くの親しい友達を作ることができました。友達と一緒にカナダやワシントン D.C.へ旅行したり、Universal Studios Hollywood や Six Flags Magic Mountain に行ったり、実家に招待してもらったりと、多くの貴重な思い出を作ることができました。

もちろん、中には自分の話を聞こうとしてくれなかったり、英語を馬鹿にしてくる人もいます。しかし、そのような人とは無理に関係を続ける必要はなく、距離を置いて問題ありません。本当に優しい友達は、最後まで話を聞こうとしてくれます。たとえ言葉に詰まっても、理解しようと努力し、言いたかったことを言い換えてくれたり、「こういうことだね?」と確認しながら助けてくれます。

また、このようにしてできた友達は、一時的な関係ではなく、一生続く大切な友達になります。日本は私たちが思っている以上に海外の人から好かれており、日本の文化や食べ物、生活に強い興味を持っている人がたくさんいます。実際に、仲良くなった友達からは「将来日本に行くときは知らせるね!」「日本で一緒に遊ぼう!」と言ってもらえることが多く、とても嬉しく感じました。

留学中は一人で過ごす時間が多く、孤独を感じることもあります。しかし、自分から一歩踏み出して人と関わることで、その不安はかけがえのない出会いへと変わります。今の私の将来の楽しみの一つは、アメリカで出会った友達と日本で再会し、一緒に時間を過ごすことです。留学は語学力の向上だけでなく、国境を越えて一生続く友情を築くことができる、とても貴重な経験だと強く感じました。

### 【日本人コミュニティ】

日本人コミュニティとの関わり方は、留學生活の中で最も難しいテーマの一つだと思います。私の留學先には、明治大学の学生だけでなく、他の日本の大学から来た留學生も数名いました。

留學当初は、「せっかく留學に来たのだから現地の友達を作りたい」「できる限り日本語に頼らず生活したい」という思いが強く、日本人コミュニティとはあえて一定の距離を保っていました。実際、日本人と距離を置いたことで、現地の友人ができ、週末に予定が入るようになり、自分のコミュニティが広がったのも事実です。

一方で、日本人コミュニティを通じて、新しい友人ができたり、イベントや集まりに誘ってもらえたりしたこともありました。情報を共有できることや、日本語で相談できる相手がいることは、特に困ったときには大きな支えになりました。この点において、日本人コミュニティが果たす役割は決して小さくないと感じています。

しかし、日本人同士の距離が近くなりすぎることによって生じる問題もありました。どうしても日本語を使う時間が増えてしまい、英語を使う機会が減ってしまうことがあります。また、日本人が少ない環境だからこそ、普段はあまり関わらないにもかかわらず、困ったときだけ連絡が来るケースや、自分が時間をかけて築いてきた現地の友人との関係に、水を差されてしまう場面もありました。

さらに、中には周囲の行動に過度に干渉する人もおり、「今どこにいるのか」「なぜ誘ってくれなかったのか」といった言動が、結果的に自分の行動の自由を狭めてしまうこともありました。実際、同い年の留學生が、他の日本人留學生に過度に依存され、不要なストレスを抱えてしまった例も見ました。

これらの経験から感じたのは、日本人コミュニティは「避けるべき存在」でも「依存すべき存在」でもないということです。困ったときには支え合いながらも、自分が留學で何をしたいのか、どんな人間関係を築きたいのかを見失わない距離感を保つことが重要だと思います。日本人コミュニティとどう向き合うかは、留學をより充実させるかどうかを左右する、大きなポイントの一つだと感じています。

### 【言葉と文化の壁】

留学生活ではうまくいかないことが本当にたくさんありました。皆さんも同じような経験を必ずすると思います。現地ですでた友人に冗談半分で自分の英語を繰り返されたり、一生懸命話したのに聞いてもらえていなかったり、「What do you mean?」と聞き返されたりと、毎日のように言語の壁を感じました。また、文化の違いに戸惑うことも多くありました。してあげた行動に「ありがとう」の一言がないこと、相手が時間に遅れてきても「ごめんね」の一言がないこと、ご飯を作ったり物を貸したりしても「当たり前」のように受け取られてしまうこと。日本人の常識が通用しない環境は、正直とてもストレスでした。だからこそ、日本人が持つ常識や価値観を一度見直す必要があると感じました。

一方で、日本人ならではの「美德」は、ぜひ大切にしてほしいと思います。時間を守ること、相手を気遣うこと、約束を軽く扱わないこと、見返りを求めずに行動すること。こうした価値観は、日本では当たり前かもしれませんが、海外では決して当たり前ではありません。

私は自分を、特別に社交的なタイプでもなく、むしろ典型的な日本人だと思っています。それでも、この「当たり前」を大切に行動してきたことで、多くの親しい友人を作ることができました。相手の話を最後まで聞くこと、小さなことでも感謝を言葉にすること、困っている人がいれば自然と手を差し伸べること。そうした一つ一つの行動が、信頼につながっていったのだと思います。

実際に、「君はいいやつだね」「一緒にいると安心する」と言ってくれる友人が何人もいました。派手に目立つわけではなくても、誠実に人と向き合う姿勢は、国や文化が違ってても必ず伝わるのだと感じました。むしろ、利害関係がはっきりしやすい環境だからこそ、見返りを求めずに行動できる人は、より強く印象に残るのだと思います。

留学先では、日本人であることが弱みになる場面も確かにあります。しかし同時に、日本人であるからこそ評価される部分も必ず存在します。自分の文化を否定するのではなく、良い部分は自信を持って貫くこと。それが、異文化の中で自分らしく生きることにつながり、結果として人との深い関係を築くことができた理由だと、今では思っています。

### 【どこまで行ってもないものねだり】

正直、留学をしていて後悔を感じる瞬間は何度もありました。日本にいたら、友達と一緒にサークルやゼミに打ち込み、大学生のうちにしかなできない楽しい時間を日本で過ごせたと感じます。かといって、留学をしていなかったら、留学をしている友達を羨ましく思い、「自分もすればよかった」と感じていたでしょう。アメリカを選んででもヨーロッパに留学している友達をいいなと思ったり、LA にいても他の都市や大学に留学している人を羨ましく思ったりすることがあり、結局どこまで行っても「ないものねだり」だと思います。自分が問題や寂しさに直面したとき、周りの友達がとても輝いて見える瞬間は必ずあります。留学中、「楽しそうだね」と言われることは多かったです。日本の生活を羨ましく思ったり、恋しく感じたりすることは数え切れないほどありました。よく言われるように、留学生活の 7 割は大変なことで、楽しいことは 3 割ほどだと感じます。当然ですが、留学している人は、Instagram や BeReal には楽しい場面しか投稿しません。正直「きつい」「日本に帰りたい」「みんなに会いたい」と思う瞬間は数え切れないほどありました。

それでも、7 割が大変なことだとしても、残りの 3 割には確かに楽しい瞬間があります。うまくいかないことの方が圧倒的に多い中で、その小さな楽しさを目標に頑張ればいいのだと思います。授業で勇気を出して発言できた日、英語が意外と相手に通じていたと気づいたとき、友達との会話の中で新しい表現を自然に使えた瞬間、新しい人と知り合い、名前を覚えてもらった日。どれも誰かに自慢できるような出来事ではありませんが、そうした小さな「できた」「楽しかった」を一つずつ積み重ねていくことが、留学生活を続ける上で大きな支えになっていました。

日本で頑張っている友人の姿を見て、「自分は何もできていないな」「ただお金ばかり使っているだけなんじゃないか」といつも感じていました。友人たちがサークルやゼミに打ち込んでいて、自分だけがその流れから外れてしまったような感覚になることも多かったです。楽しそうな写真を見たり話を聞いたりするたびに、もし日本に残っていたらどんな大学生活を送っていたのだろう、と考える時間も多かったです。

友人たちと同じ時間を共有できなかったことへの寂しさや、置いていかれているような不安を感じることも多かったです。私は日本で大学 2 年秋学期と 3 年春学期を過ごすことができませんでした。それでもその代わりに、他の人が簡単には経験できないアメリカでの 1 年間を過ごすことができました。順調とは言えない日々の中で、言葉の壁や文化の違いに悩み、自分の未熟さや弱さと向き合い続けた時間だったからこそ、この経験は単なる「楽しい留学」では終わらなかったと思います。

振り返ってみると、この 1 年は、自分が何を大切にしたいのか、どんな環境でどんな人間でありたいのかを考え続けた時間でした。迷うことも多く、周り比べて落ち込んだり、自分の選択が本当に正しかったのか分からなくなったりする瞬間が何度もありました。それでも、悩みながら考え、行動し続けた時間そのものが、今の自分を形作っているのだと思います。日本で過ごせなかった時間がある一方で、ここでしか得られなかった経験や出会いが確かにありました。

大切なのは、自分の選択を正解にするための努力だと思います。これは、私が尊敬するサークルの先輩から頂いた言葉です。「自分が選んだ道を正解にするしかない。どの道を選んで、周りから何を言われようとも、自分が後悔しないように、それが正しかったと自分を納得させ、周りにも認めてもらえるように、現状でベストを尽くすしかない」。留学中、迷いや不安を感じるたびに、私はこの言葉を何度も自分に言い聞かせていました。

## 【心に残っていること】

もちろん、つらいことばかりだったわけではありません。振り返ってみると、留学生活の中には、日本では決して味わえなかった楽しい思い出が数えきれないほどあります。中でも印象に残っているのは、ピククルボールサークルで親友と呼べる存在に出会えたことです。最初はルールも文化も分からないまま飛び込みましたが、気づけば毎日のように一緒にプレーする仲間になりました。言葉が完璧に通じなくても、同じことに熱中する時間が、人との距離を一気に縮めてくれたのだと思います。

友人たちと部屋でパーティーを開いたり、一緒に日本食を作ったりした時間も、今では大切な思い出です。味噌汁や親子丼を振る舞いながら、日本の文化について話したり、逆に異国の習慣を教えてもらったりする中で、教室では学べない交流が生まれました。

長期休暇を利用して旅行に行けたことも、留学ならではの経験でした。Thanksgiving holidays にはボストン、ニューヨーク、ナイアガラを巡り、映像でしか見たことのない場所を自分の目で見ることができました。現地の友人とユニバーサル・スタジオや Six Flags に行ったり、サンディエゴの友人の実家に招待してもらったりと、観光だけでは味わえない「生活に近い体験」もできました。ロードトリップでジョシュアツリーに行ったことや、現地の友人と一緒にカナダ、ワシントン DC へ旅行したこと、WBC を観戦するためにフロリダまで足を運んだことも、忘れられない思い出です。

## 【これから留学を考える人へ】

「留学は勉強だけではない」、ということを実感しました。違う文化や国籍の人と出会い、同じ時間を共有し、思い出を積み重ねていく、その一つ一つが、留学を「やってよかった」と思える理由になっています。

そして、何よりも強く感じたのは、友人や家族のありがたさです。困ったときにすぐに助けてくれる友人、いつも支えて応援してくれる家族。普段は当たり前だと思っていたその存在が、どれだけ自分を支えてくれていたのかを、留学生活を通して改めて実感しました。毎日の自炊や洗濯、掃除などを自分で行う中で、これまで何気なくしてもらっていたことの大切さに気づき、友人と笑って話せる時間や、家族と交わす何気ない会話がどれだけ特別なものかを深く感じました。

留学に少しでも興味があるなら、ぜひ挑戦してほしいです。ただし、語学力以上に大切なものがあります。それはマインドセットです。語学力が十分でなくても大丈夫です。留学で一番大切なのは、新しい環境を前向きに受け入れ、そのために行動し、努力し続ける姿勢だと私は思います。

大変なこともたくさんありましたが、それでも今振り返ると、未来の自分が今の自分に「留学してくれて本当にありがとう！」と思える経験になりました。

この報告書を読んでもくださった皆さんの留学が、実り多く、充実したものになることを心から願っています！！